



だい き  
**第3期**

かわさきし

わかもの

みらい

おうえん

**川崎市こども・若者の未来応援プラン**

わかもの こえ き とりくみ  
**こども・若者の“声”を聴く取組**



れいわ ねん がつ  
令和8(2026)年3月



# こども・若者の“声”を聴く取組

「こども基本法」では、こどもに関係する事業などを決めるときは、こども・若者の意見を聴いて、決めることとされています。

川崎市では、この考え方にもとづいて、「第3期川崎市こども・若者の未来応援プラン」の計画つくるときに、こども・若者の“声”を聴く取組を行いました。



未来をになうこども、若者たちが、夢や希望を持って、自分の力を活かして、社会の中で楽しい人生を送れるようにするための計画です。

## 「子ども・若者の“声”募集箱」の活用

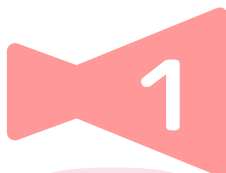
令和4(2022)年度から継続している「子ども・若者の“声”募集箱」の意見を分析しました。

子ども・若者の“声”募集箱とは？

## 「子ども・若者調査」の実施

市内の小学校5年生、中学校2年生と16歳から30歳までの若者を対象に、日ごろの生活のことや悩みごとなどについて、調査をしました。

子ども・若者調査とは？



フォームでアンケート

3ページ

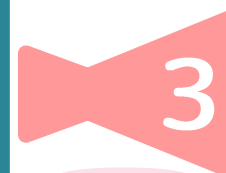
子ども・若者の“声”募集箱を活用して、期間限定のアンケートを行いました。



大学生とのグループトーク

4ページ

市内の大学生やソーシャルデザインセンターの若い世代と結婚、子育て、まちづくりについて意見交換会を



パブリックコメント

7ページ

作った計画の案について、パブリックコメントの制度を活用して、みなさんから意見をもらいました。



1

# フォームでアンケート

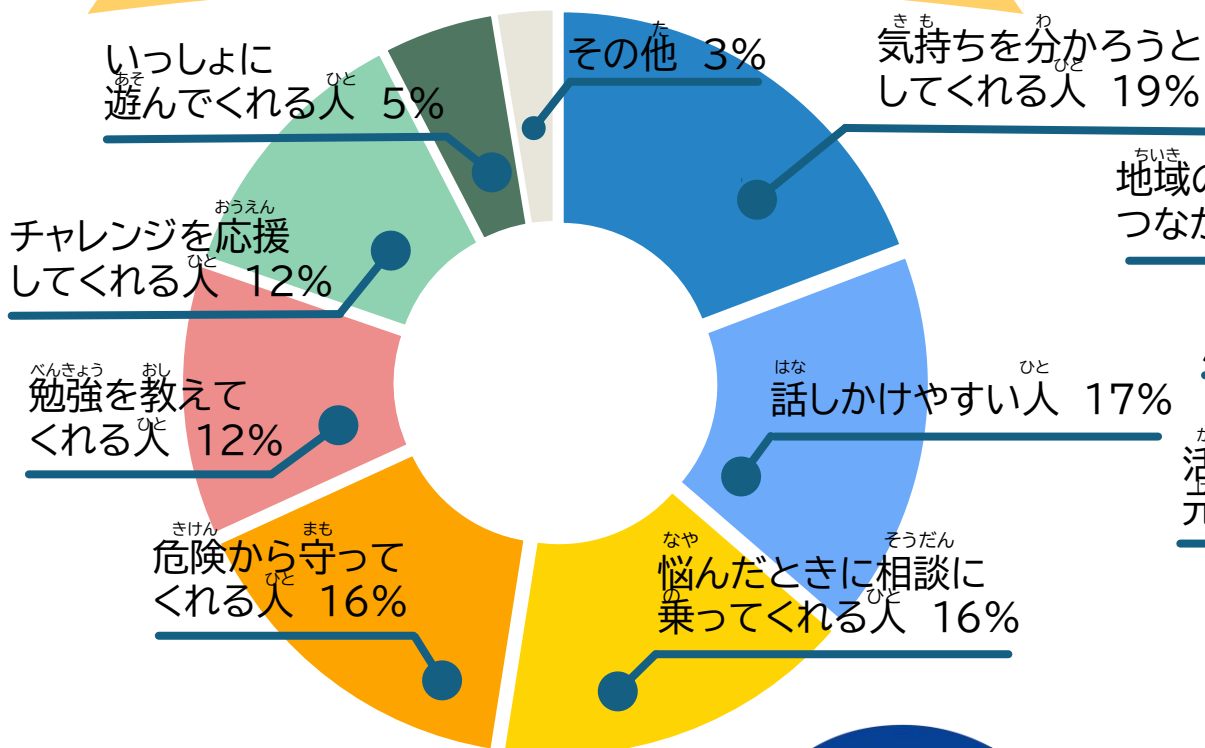
「こども・若者の未来応援プラン」を作るために、「子ども・若者の“声”募集箱」で期間限定の質問をつくって、みなさんにアンケートに協力していただきました。アンケートは令和7(2025)年9月5日～令和7(2025)年12月26日におこなって、178人の方に回答いただきました。

## 子ども・若者の“声”募集箱とは？

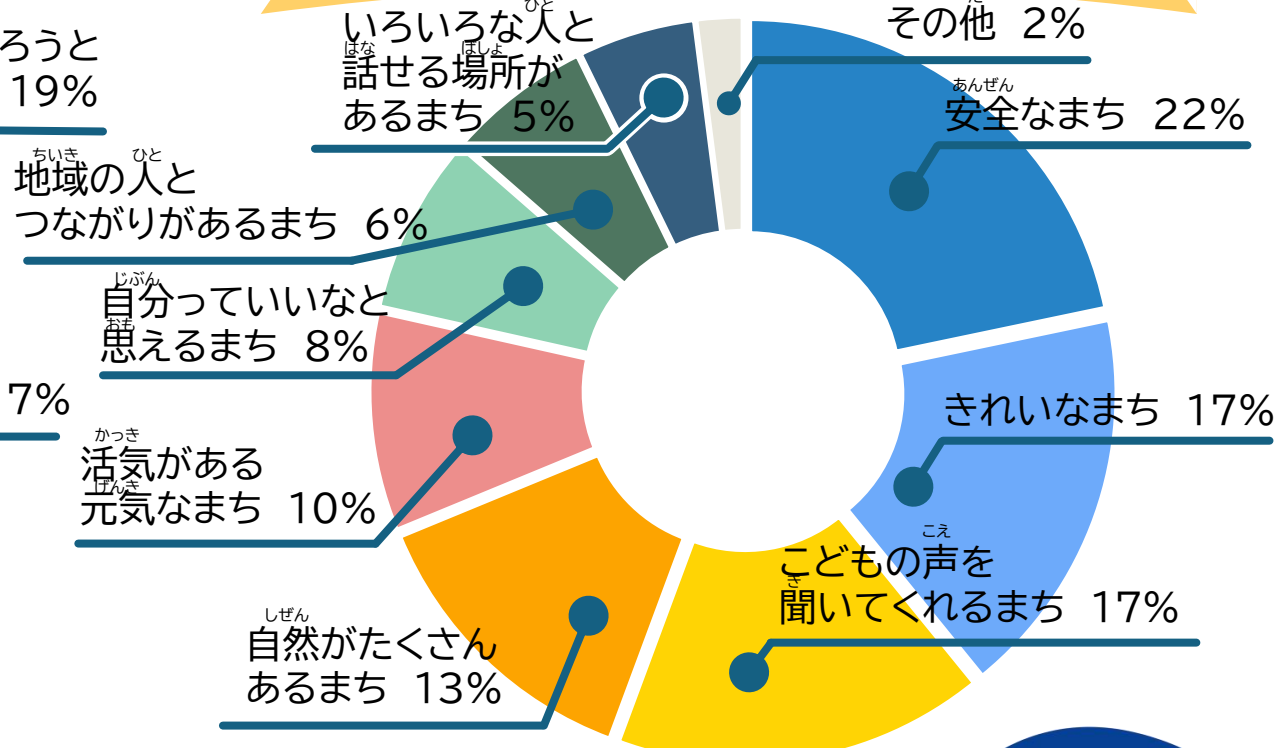
川崎市のこども・若者が、川崎市についてアイデアや提案を川崎市へ届けます。届いた声は、毎月市長が確認して、市ホームページで市長メッセージと届いた声についての市の考えを発信しています。



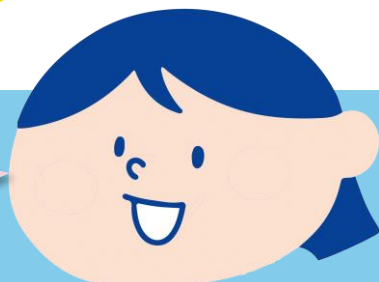
### あなたのまわりにどんな大人がいてほしいですか？(3つまで選択)



### これから川崎にどういうまちになってほしいですか？(3つまで選択)



こども・若者に対してやさしい心をもってくれている大人が求められているんだね！



みんなが気持ちよく、安心してらせるまちが求められているんだね！



# 2

## 大学生との グループトーク

市内の大学やソーシャルデザインセンターに協力してもらい、大学生やソーシャルデザインセンターの若い世代と、結婚、子育て、まちづくりについて意見交換を行いました。

- 川崎市青少年フェスティバル実行委員会  
9月18日(木) 8名
- 多摩区ソーシャルデザインセンター  
9月26日(金) 12名
- 川崎市「二十歳を祝うつどい」サポーター  
10月7日(火) 9名
- 田園調布学園大学  
10月28日(火) 9名



グループトークの様子

### 質問1

学校や家庭外で小学生から高校生の時に嬉しかったこと・よかったと感じたことは何ですか？(意見の一部)



- 住んでいるマンションで、近所のおじいちゃんが、エレベーター等で「頑張ってるね！」「お帰り！」って帰りの度に声を掛けてくれたのがすごく嬉しかったな～。
- 小学生のとき、地域のスポーツチームに所属していて、自治会等のお祭りに参加して楽しかった。今でも街で自治会の人を見かけるとホッとする！
- 子ども会では年齢の違う子どもたちとの交流があって、高校生・中学生と一緒に小学生の面倒を見るというところがよかったと思う。
- 小学生のとき、公園で大人数で鬼ごっこをして遊んだりして、ずっとこの関係が続けばいいのにつて。
- 習い事でダンスをやっている、こども文化センターの集会室を使っていたんだけど、始まる前とかに友達とセンターで遊んで楽しかった！
- 塾が1つの居場所となっていて、勉強が辛いとは思わなかった。塾の先生に進路の相談をしたときに、先生の実体験を色々教えてもらった。自分の意見を否定をせずに肯定してくれる先生で、出会えて本当に良かった。



## 質問2

結婚・子どもを持つことについて  
どんなイメージを持っていますか？（意見の一部）

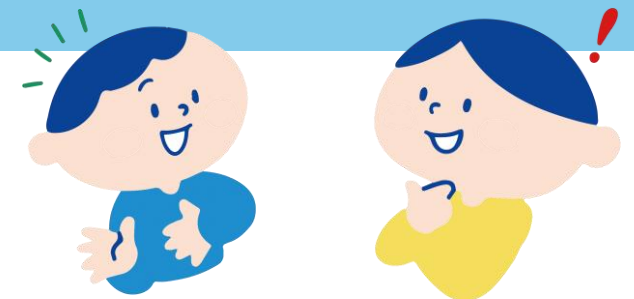
- 結婚はお互いを認め合えるパートナーというイメージ。
- 小さいころからお母さんになりたいと思っていた。兄弟にも囲まれて育てて楽しかったから、早く結婚したい！結婚式をしてみたい！ウエディングドレスを着てみたい！
- 仕事やキャリアなどを考えると不安…。出産のタイミングも大切なのかな…
- 結婚について誰かから話を聞くチャンスもないからイメージが湧かないし、結婚願望がそもそもない。今の時代、結婚しないという選択肢もあると思う。縁があったらしたいくらいの認識。
- 他人の子どもはかわいいと思うし、子どもは好きだけど、自分がいざ子育てするとなると不安。大変そう。
- 子どもは、自分にお金と時間など余裕があるときがいい。
- スーパーやバイト、ボランティアなどで子ども達、親子、家族を見かけたり、関わる中で、家庭を持つのっていいな～と思う。
- だれかと一緒にはいたいけど、結婚をしなくてもシェアハウスとか別の方法が増えている。友達と老後でもいいかなと思う。



## 質問3

質問の2のイメージを持ったうえでどういうまちだったら  
結婚や子どもを持つことについてチャレンジできそうですか？（意見の一部）

- 実際、家事や育児への労力がかかると思うから、状況に応じて両方手伝ってほしい。
- 周りの人たちの見守りとか応援の雰囲気とか環境も大事だと思う。
- 地域交流イベントがたくさんあるといいんじゃないかな。地域の人との関係深めたい。子育てのやりかた教室とかあるといいと思う。
- こどもにとって、頼れる、相談できる身近な大人がいるといいよね。こども文化センターとか夢パークとか、職員の人がいる施設の方が安心する。
- 子どもの権利の普及啓発をもっとしたらいいと思う。みんなが知っている状態がいいよね。



質問の2のイメージを持ったうえでどういうまちだったら  
結婚や子どもを持つことについてチャレンジできそうですか？（意見の一部）

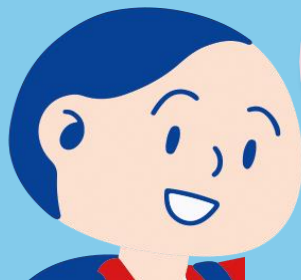


- 親子支援の施設は、だれでも利用していいはずなのに、その施設の名前がかたいと感じる。今はSNS等で言葉が強い力があるので、集まりやすい雰囲気大事。
- 自分と家族構成等共通点がある人に相談したり、家の近くに日頃から気軽に相談できる場所がたくさんあるといい。
- 子育てについては、ネットで調べた知識が中心になってしまう。子どもを持つ前に、子育てについて深く知ったり、集まれる機会があると不安が減ると思う。
- 親に対してというより、子どものためにやれることをやってほしい。子どもたちにやさしい取り組み。
- 育児に逃げ道があるといい。一週間くらい子どもを預けることができるとか。子育てから離れる時間があるといいと思う。
- 親子で参加できるプログラムがあると良い。そういうプログラムを行政がやってくれると安心感がある。
- もう少し里親制度のことを知ってもらった方がいいかも。自分は出産はしたくないけど子どもは好きなので里親の選択肢もあるかもしれない。

小学生や中学生のころの思い出は、友達や近所の人、習い事などで出会った人など、人とのつながりについてのエピソードが多くあがっているね！

結婚や子どもを持つことのイメージについては、家族など周りの方でイメージがある人、結婚にとらわれない人、お金や出産に不安がある人などさまざまな声があがっているね！

どういうまちだったら結婚や子どもを持つことにチャレンジできそうかの質問については、周りの方や子どもや子育て世代の人自身の意識のこと、そして、子育てする人を助ける制度や、ネットの時代だからこそ、実際の情報や子育てをしている人のことを知る機会についての意見があがっているね！



# 3

## パブリックコメント

みなさんの意見などをふまえて、「第3期川崎市子ども・若者の未来応援プラン」の案をつくり、パブリックコメントで案についての意見を募集しました。

31日間  
おこなった期間  
令和7年11月26日(水)  
から  
令和7年12月26日(金)



- 子ども版のリーフレット、パブリックコメントのチラシを作って、図書館などに資料を置くなど、広くお知らせしました。
- かわさき子どもページでパブリックコメントについてのページを作りました。

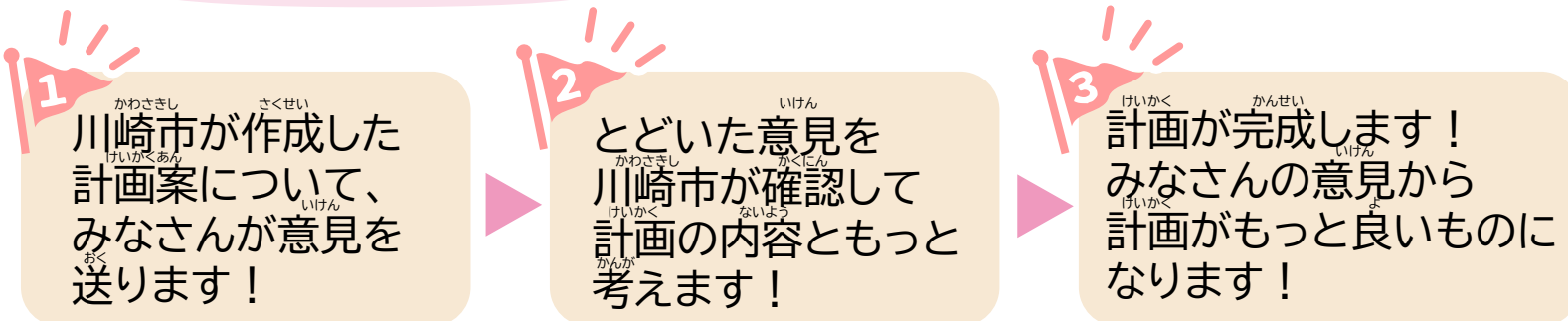
「第3期川崎市子ども・若者の未来応援プラン」のパブリックコメントのホームページ



## パブリックコメントとは？

- 川崎市の条例や計画など、ルールを作ったり、変えようとするときに、その条例や計画などの案について広くみなさんから意見をもらい、より良いものにするためのしくみです。
- 意見は、入力フォームや、FAX、手紙などで川崎市へ届けることができます。

## パブリックコメントのながれ



パブリックコメントのホームページ

## パブリックコメントの結果

届いた意見の数  
31通82件



届いた意見のうち、  
こども・若者から届いた意見の数  
7通14件

※小学生5通、中学生2通、高校生1通、大学生1通

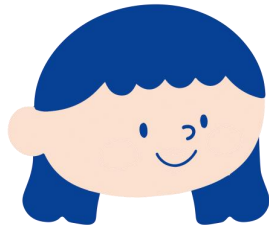
※1通の意見の中にいくつかの内容の意見があった場合は、件数で集計しています。

例:1通の意見の中に意見が3つ→1通3件

「第3期川崎市こども・若者の未来応援プラン」の  
パブリックコメントのホームページ

## 届いた意見①

こども・若者から届いた意見について紹介します。  
大人からの意見は、市のホームページに載せています。

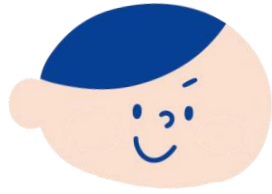


屋内外でいろんな人と遊べる場所が増えたり、困ったときに相談できたり、  
こどもがもっと安全に楽しく過ごせる環境になっていくと良いと思う。

みなさんの成長に合わせて放課後に安全に楽しく過ごせることや、  
困っているときに、大人が気づいて話をしたり助けしてくれることは  
とても大事なことで考えています。  
こどもたちが将来にわたって幸せに成長して、持っている力をしっかりと  
のばして、社会で活躍できるように、新しい計画でも、  
「こどもの居場所づくり」や「切れ目のない支援」などの取組を進めて  
いきます。

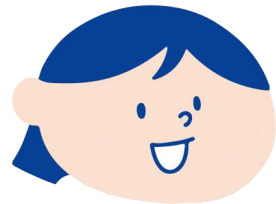
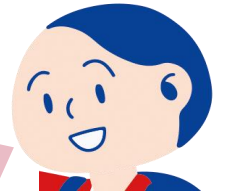


とど いけん  
届いた意見②



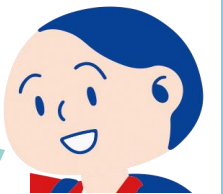
みんなで力を合わせて、明るくて楽しい、良いまちになってほしい。

こども・若者がすこやかに育ち成長できる環境づくりに向けて、  
家庭、学校、企業、行政等がいっしょに協力しながら取り組んでいくことが  
重要と考えています。  
これからも、地域社会全体でこどもや子育て家庭に寄り添いながら、  
しっかりと支える環境づくりを進めていきます。



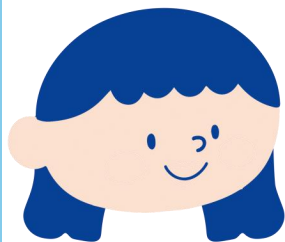
こどもの計画を作るのにこどもの意見を聞くとすることは  
とてもいいことだと思う。  
計画だけではなく、これからもこどもの意見を聞いて欲しい。

川崎市では、こども・若者が、市に対して感じていることなどを聴くしくみとして、  
「子ども・若者の“声”募集箱」の事業をおこなっています。  
「子ども・若者の“声”募集箱」は、GIGA 端末や市ホームページからオンラインで  
意見を募集するもので、寄せられた声は、全て市長が確認し、寄せられた声に関連した  
市の取組や、市長メッセージを市のホームページでみなさんへ届けていますので、  
ぜひ意見を寄せてください。



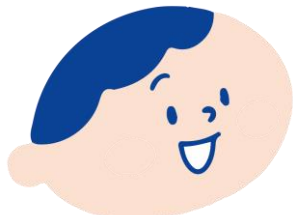
こども・若者の“声”募集箱とは？

# 届いた意見③

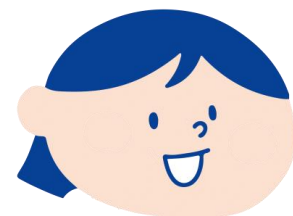


給食の量を増やしてほしい。理由は量が足りないから。

学校給食では、一度に数百人分を調理するため、おかずの組合せによっては品数や量が少なく感じるようなことがあるかもしれませんが、児童生徒の健康や成長のために必要な栄養量を計算し、栄養のバランスを考えて献立を決めています。今後も献立の工夫を行いながら、よりよい給食が提供できるようにします。



中休みの時間を増やしてほしい。理由は20分だと短いから。

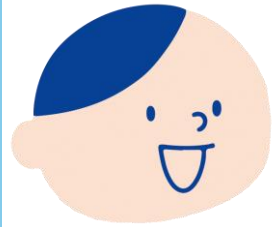


学校で休む時間や休憩する時間が短いので休憩時間をもう少し長くしてほしい。

子どもたちが朝、登校してから下校するまでの学校で過ごす時間と、勉強に必要な授業の時間のバランスを考えて、学校ごとに時間割を決めています。そのため、多くの小学校では、休み時間はだいたい20分から30分です。



## 届いた意見④



私は、川崎市の多様な取り組みを通じ、多くの学びと経験を得てきた。高校時代に参加した「量子サマーキャンプ」では、最先端の研究に触れる機会を得たことが理系分野への関心を高め、現在の進路選択へ大きな影響を与えた。若者の挑戦を支える川崎市の施策に深く感謝している。現在は市外の大学に通っているが、可能な限り川崎で買い物をするなど、育ててもらったまちに貢献したいと考えている。これらの経験から、川崎市が今後も、子どもや若者が学び、挑戦し、地域とつながる機会を一層広げていくことを期待する。

川崎市の強みの一つとして、市内や隣の市などに数多くの大学や企業の研究機関などがあることがあります。その強みを最大限に活用して、産業分野、学分野、行政分野が協力して、子ども・若者が、様々な分野で、自分が将来どうなりたいか、それに向けてどのように行動していくかなどをさらに具体的に、国際的な幅広い視野を持って活躍することを目指しています。そのために、「Kawasaki Quantum Summer Camp」や、「Stanford e-Kawasaki」などのみなさんの「新たな一歩」を後押しするための事業や、社会的養護奨学給付金などの機会格差をなくす取組を実施しています。これからも地域社会全体で育てた子ども・若者が、将来、世界で活躍して、学んだことや身に付けた力を、次の世代の子どもたちのために返してくれるようにする「人財の好循環」を進めていきたいと考えています。



好意のある女生徒にセクハラをした教員について、オンブズマンに申し入れをして現地視察も実施されたが、当該教員にはお咎めなしで、結局、何も改善されていない（中学校）。

川崎市では、先生によるハラスメント（いやがらせやよくない行ない）などについてお知らせがあったときは、まず子どもたちの安全をいちばんに守り、学校といっしょに何があったのかをよく確かめて、必要な対応をします。また、学校にはハラスメントについて学ぶ研修を計画的に行うように伝えており、校内でそのようなことに気づいたときは、すぐに校長先生や教頭先生に報告するしくみを整えています。

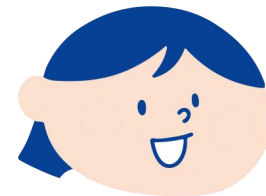


とど いけん  
届いた意見⑤



不登校の友達（人付き合いに抵抗があるが勉強をしたい生徒）について、個別に空き教室等で主に自習しているが、学校によっては個別授業が受けられ出席扱いになるなど、対応にバラつきがあるため統一して欲しい。

学校の「出席にするか、出席と同じ扱いにするか」は、市で決めたきまりにそって対応していますので、これからも、そのきまりを学校にしっかり伝えていきます。また、教室とは別の部屋に、スタッフがいて、安心して過ごせる場所や勉強できる場所を増やしていきます。



部活において、顧問の先生のプライベートな時間の確保と部員の技術向上のため、外部コーチの導入をもっと増やして欲しい。試合で勝つために練習時間を増やして欲しいと考えているが、一部の生徒（保護者）の要望により、時間を減らされているため、やる気のない部員は入部させないなどの対応が必要と考える。

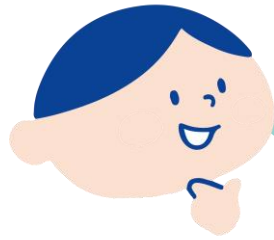
部活動の見直しは、計画の104ページに書いてあるとおり、「かわさき部活動ガイドライン」（令和8年3月策定）にそって進めることが重要です。このガイドラインでは、学校の先生も子どもたちもむりをしないで続けられるバランスの取れた部活動にするための考え方ややり方をまとめますので、これからも実現に向けて対応を進めていきます。

けいかく  
計画のホームページ

ぶかつどう  
かわさき部活動ガイドライン



## とど いけん 届いた意見⑥



学校の設備の改善をしてほしい。

- ① 体育館のキャットウォークで観覧する際、垂直梯子しかないため、階段を設置して欲しい（高津高校）。
- ② 体育館にハンドボールのラインがないため、毎回ラインテープを張るのに無駄な時間を要する（高校）。
- ③ バドミントンのコートが4面しか貼れない学校と6面貼れる学校があるため体育館の広さを統一して欲しい。
- ④ 特別教室（音楽室・技術室等）には空調がないため、空調の設置をお願いしたい（小・中学校）。
- ⑤ 女子更衣室に空調がなく狭いため、女子更衣室の拡張と空調の設置をお願いしたい（高校）。
- ⑥ 校庭の水捌けが悪く、校庭で体育が出来なくなったり、遊べない日があるため、水捌けを改善して欲しい（小・中学校）。

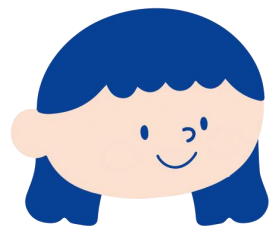
① 垂直梯子で上がるキャットウォークは、点検作業で使うためのものです。

② 体育館の床の線は、学校と相談して決めて、引いています。これから、学校から「直したい」という申し出があったときは、その内容をもとに学校と相談しながら、どう進めるか考えていきます。

③ 体育館は、建て替えや大きな工事を行うタイミングに合わせて、学校と相談しながら、その学校に合った広さで整えていきます。

④ 特別教室で、まだエアコンがない部屋には、移動できる冷房機（スポットクーラー）を置いて、環境をよくする対策をしました。今あるエアコンは、取りかえの時期をむかえています。そこで古くなった校舎や体育館を、長く、安全に、そして快適に使ってけるよう、必要な工事などを行う計画に合わせて直したり、エアコンをまとめて取りかえたりする事業を、令和10年度まで進めています。エアコンがない特別教室にも、この期間に入れていく予定です。

⑤・⑥ 女子更衣室や校庭を改善することについては、学校から「直したい」という申し出があったときに、その内容をもとに学校と相談しながら、どう進めるか考えていきます。



給食当番の際、重い寸胴鍋を階段で運ばなければならない、怪我や事故につながる可能性が高いため（実際に汁物をこぼす事例あり）、当番に限り、せつかく設置されているエレベーターを使わせて欲しい（小・中学校）。

食缶や食器かごを運ぶときは安全第一で、汁物やごはんの食缶を階段で運ぶときは2人で持って上がる、一方通行にするなど工夫して運んでください。

エレベーターを使うかどうかは学校ごとに決めています。安全のためそばで見守る大人が必要なことやエレベーター数が少なく時間がかかってしまい給食の時間がへってしまうことなどからすぐに実現がむずかしい状況です。何人かで協力して運ぶなど、運び方を工夫することで安全に運べるようにしてもらえればと思います。



## とど いけん 届いた意見⑦



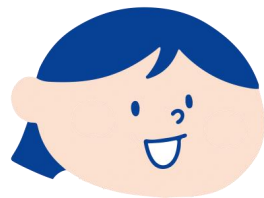
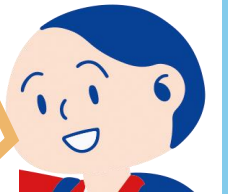
中学校の絶対評価について、テストの点が高くて「4」であったり、高くなくても「5」が付いたり、担当先生のさじ加減によるところが大きいいため、基準を明確にして欲しい。

川崎市では学校が国の学習のきまり（学習指導要領）にもとづいて、「教えること（学習指導）」と「学びのふり返り（学習評価）」を上手につなげてできるように、支えています。

「学びのふり返り（学習評価）」は、人と人をくらべる（相対評価）のではなく、めあて（国や学校の目標）にどれだけ近づいたか評価します。

また、「教えること（学習指導）」は、子どもが学びをよくするためや、先生が教え方をよくするためにを行います。

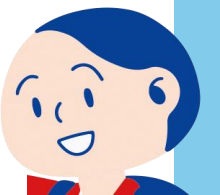
これからも学校が、子どものよいところや成長をしっかりと見つけて伝え、学んだことの大切さを実感できる授業ができるよう、支えていきます。



こどもの意見が必要な場合は、学校のホームルーム等でアンケート調査を実施した方が多くのこどもの意見を徴収することができると思う。

川崎市では、こども・若者の声を聴くしくみとして、「子ども・若者の“声”募集箱」の事業をおこなっています。また、もう少しくわしく聴きたいテーマがあるとき、年齢をしばって意見を聴きたいときなどは、学校でアンケート調査をおこなうなど、目的にあった方法で意見を聴いています。学校では、学級会や児童会、学校行事などで、子どもたちが自分の意見を言う機会があり、先生たちは、その気持ちや考えをしっかりと受け止めて、どうすれば実現できるかを一緒に考えています。また、学校のことを話し合う会議（コミュニティ・スクール）にも子どもたちが参加して、意見を伝えたり、活動の様子を話したりします。

この会議では、学校の活動に子どもたちの思いを生かせるように学校を支援していて、地域の人や市の人、学校などが力を合わせて、子どもたちが意見を言える場を確保して、その意見が市の仕事や学校の運営に生かされるように取組を進めています。



# 「第3期川崎市子ども・若者の未来応援プラン」のポイント！

「第3期川崎市子ども・若者の未来応援プラン」の  
パブリックコメントのホームページ

プランの内容については、  
子ども版のパンフレットなどを見てね！

みなさんや、子ども・子育て会議の委員の方の意見をきいて考えて新しくつくった、  
「第3期川崎市子ども・若者の未来応援プラン」の中でみなさんに身近な事業に  
ついていくつか紹介します！

学童期・思春期の  
子どもたちの  
居場所づくり

と取り組んでいきます！

遊び場の整備

体育館の  
空調設備の整備

ライフデザイン  
セミナーの開催





Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

かわさきし かわさきし みらいきょく みらいきょく そうむぶ そうむぶ きかくか きかくか  
**川崎市子ども未来局総務部企画課**

じゅうしょ じゅうしょ かわさきし かわさきし かわさきく かわさきく みやもとちょう みやもとちょう ばんち ばんち  
**住所：〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地**

でんわ でんわ  
**電話：044-200-2848**

**ファクス：044-200-3190**

**メールアドレス：45kikaku@city.kawasaki.jp**

